



校訓 響生・知性・至誠

農場通信



発行者 本吉響高等学校農業科
発行日 令和3年8月27日 第4号

今年は何年と比べると一週間ほど早く、7月16日に梅雨明けとなり、その後は晴天に恵まれて猛暑続きの夏休みとなりました。田畑にとっても過酷な気温でしたが、お盆期間の長雨は大地を潤す恵みの雨となりました。農事暦では8月24日頃を「処暑」(しょしょ)と言います。これは、暑さがおさまるとい意味で、日中は暑いものの、朝晩の涼しさに初秋の息遣いを感じる頃です。夏休みも終わりましたが、いよいよ農場にとっては気が抜けない秋の台風シーズンに入っていきます。

News 例年より早く「ひとめぼれ」と「つや姫」が出穂しました

例年は8月4日頃に出穂(しゅっすい)期を迎えますが、今年は梅雨明けも早いことから、本校のひとめぼれが7月31日に出穂しました。稲は穂を出すすぐには開花し受粉します。受粉後7~10日間で、籾の中では胚(はい)が形成します。胚が完成すると養分をデンプンにして、胚乳(はいにゅう)として籾に蓄積し始めます。稲は晴れた日の午前中に清楚な花を咲かせます。1本の穂には複数の籾が付いていて、穂先から順番に咲きます。開花時間は約2時間と短く、神秘的な光景です。通常であれば出穂後45日程度で登熟期を迎えるので、9月中旬に稲刈りをする予定です。”ひびき米”の収穫まであと少しです。



籾が開き、雄しべが出て受粉中の様子です。まさに、神秘的な瞬間です。

【下の拡大写真】



知っていますか? ~響生も頭を垂れる人であれ~

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」ということわざがあります。読み方は「みのるほど こうべをたれる いなほかな」ですが、これは「立派な人ほど謙虚な姿勢である」という意味です。「人としての在り方」を稲穂に見立てています。響生のみなさん、稲穂のように謙虚に!!

夏野菜の収穫も間もなく終了です!

今年の夏は猛暑続きでしたが、本校で栽培する数十種類の夏野菜は順調に生育し、収穫・販売しました。また、農業愛好会では、夏季休業中も部員が集まり、熱中症対策を講じてセルトレイに播種したキャベツをビニールポットに鉢上げしました。いよいよ、これからは文化祭に向けて秋野菜の栽培が始まります。



キャベツの葉に天敵のアオムシがいます。分かりますか?



珍しい白ナスです

夏野菜の定番ゴーヤです

先進地農家見学に行ってきました

6月23日、人間環境系列で農業を選択する3年生5名で地元の農業の現状を理解するため、南三陸町で椎茸を栽培している株式会社「椎彩社(シーサイド)」に見学に行きました。会社は2002年、個人農家として椎茸栽培を始め、年間生産量は約1万4千tで売上高が1億円を超えていたそうです。

しかし、経営が軌道に乗った矢先に東日本大震災が発生しました。これにより、ハウス、作業場及び自宅も全壊しましたが、幸いにも人的な被害はなく全員が無事でした。

一時は経営を断念することも考えたそうですが、地域や消費者の励ましにより、再建して、現在は震災前と同規模の生産量のようにです。



絶品の椎茸です

情熱ある高橋社長

農業クラブ東北夏期研修会に参加しました

日本学校農業クラブ東北連盟夏期研修会が7月29日、30日にオンラインで開催されました。本校からは農業クラブ3年生2名が参加し、東北のクラブ員と交流しました。

初日は、震災からの復興をテーマに、南三陸町できのこを栽培する「椎彩社(シーサイド)」の取組について、インタビューした内容について発表しました。オンライン上では活発な意見交換もあり、充実した研修会になりました。



9月21日は中秋の名月(十五夜)です

月見の宴を催す十五夜は、これから始まる秋の収穫期を前に「豊作を願う」という収穫祭としての意味です。「お月さま」にささげるのは、イネに見立てて飾った「ススキ」、月見団子それに「お神酒」などが代表的です。月見団子は、十五夜に見られる満月の形から、真ん丸につくるのが古くからの習わしです。

十五夜の別名は「芋名月」。これは、かつて畑で収穫したばかりの芋を供物としていたことに由来すると言われています。



情報